二つの唇と、二つの思いの連鎖

緋澄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
二つの唇と、二つの思いの連鎖

【Ｎコード】
Ｎ６７９７Ｖ

【作者名】
緋澄

【あらすじ】
翔さんがニノを愛してやまないと言う、ラブラブなお話です。

「…ん」
ちゅ…っ
重なる、2つの唇。
俺の上唇を、優しく唇で包み込む翔さん。
「しょ、さん…っ」
その仕草が心地よくて。
でも、恥ずかしくて。
「だめ。もっと、キスしたい」
翔さんは俺の体を更に引き寄せ、キスをねだる。
「だ、め…っ…ぁんっ」
翔さんは俺の唇を舌で這い、服の中へと指を滑り込ませた。
「和…、もう、我慢できない」
翔さんは俺を押し倒し、唇を塞いだ。
「や…ぁっ…ん」
「もっと、鳴いて？」
翔さん…俺、もう…。
「……」
「…？和？」
バタ――――――ンッッ
「かっ、和！？」
俺は、倒れてしまったのだった…。

「…ん」
「和っ！！良かった、このまま起きないかと思った…」
翔さんは俺を力一杯抱き締めて、泣き笑いを見せた。
「お、れ…？」

「いきなり倒れたんだよ。…たぶん、俺のせい」
翔さんは悲しそうに目を細めて俯いた。
…俺、翔さんと…。
「ごっ、め…。俺、倒れて…」
俺は、翔さんの肩を少し揺すった—と同時に、唇を奪われた。
「しょ、」
「やっぱ、無理みたい。和を抱きたい。俺のものにしたいよ…」
「…っ／／／／／」
俺の顔、たぶん真っ赤。
だってさ？
翔さんが、あまりにも真剣な表情をするから。
余計に、俺が恥ずかしくなるでしょう…？
「ねぇ…、和」
「は、はい…／／／／／」
「好きだよ、愛してる」
……っ／／／／／／／／
翔さん、それ反則！！！！
もう、俺やばいです！！！
「しょ、さ…」
「もっかいキスしていい？」
翔さんは、意地悪な笑顔で俺を見た。
…そんなの、
「い、いよ…」
だって、ね？
翔さんを満たせてあげれなかったから。
せめて、キスだけでも。
「じゃ、最初は甘噛み程度ね」
翔さんは俺の髪をサラサラと撫でて、ゆっくりと顔を近づける。
「…ん…、ふ…」
翔さんは、俺の唇を甘噛みして上目遣いで俺の瞳を捕らえた。

「和、エロい」
「…っ！？／／／／／／」
俺の顔は、かぁ…っと赤く染まった。
「かわい。和、だぁい好き」
翔さんは俺をぎゅうっと抱き締めて、にこっと笑った。
「翔さん…。俺も、です」
俺がそう言うと、翔さんは少し驚いて。
でも、嬉しそうに目を細めて笑った。
そして、俺の体を抱き締めて。

「愛してる。愛してるよ」

と、今まの中で一番いい笑顔で翔さんは言った。
俺もです。
俺も、あなたが大好きです。
何よりも、大好きで。
かけがえのない存在です。

「俺も、ですっ！！」

精一杯の笑顔で、俺は翔さんに抱きついた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6797v/

二つの唇と、二つの思いの連鎖

2011年10月9日13時44分発行